

光人社NF文庫
ノンフィクション

戦車隊よもやま物語

部隊創設から実戦まで

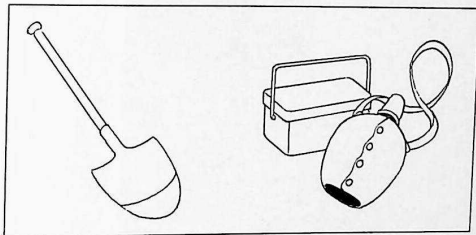
寺本 弘



光人社

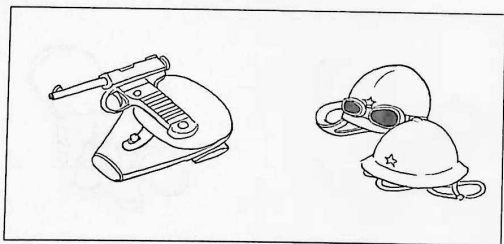
| | |
|--------------|----|
| 歌で綴る戦車史 | 9 |
| 戦車の草分けは？ | 14 |
| 国産戦車の誕生 | 18 |
| ディーゼルエンジンの採用 | 21 |
| 国産戦車の初陣 | 26 |
| 戦車部隊の増設 | 29 |
| 昭和の軍神・西住戦車長 | 33 |
| 異彩を放った戦車将校 | 40 |
| 戦車士官候補生、見参 | 45 |
| 若獅子、少年戦車兵 | 49 |
| 機甲兵の誕生 | 55 |
| 大戦前夜の機甲戦力 | 58 |
| 縁起をかつく | 63 |
| 大戦の緒戦を飾った戦車 | 67 |

| | |
|-------------|-----|
| 十二月八日、われわれは | 71 |
| ウイニング指揮 | 76 |
| 辻参謀との出会い | 79 |
| 初陣の心理 | 82 |
| 破天荒の命令 | 87 |
| 戦場のセレモニー | 92 |
| 戦車の戦闘準備 | 95 |
| 障害にはつねに火力あり | 98 |
| 疑わしい箇所は撃て | 103 |
| 異常心理は走る | 106 |
| 食うか食われるか | 111 |
| サンドイッチ戦法 | 115 |
| 戦車内のトラブル | 120 |
| 激闘の中で観たもの | 126 |



| | |
|-----------|-----|
| 狙撃兵に狙われる | 130 |
| チャーチル給養 | 135 |
| 暑い戦場の正月 | 137 |
| 一五万両のお棺 | 142 |
| ゲマスに散る(一) | 146 |
| ゲマスに散る(二) | 153 |
| くそ度胸とは | 159 |
| ゴムの木と踊る | 164 |
| 戦場の禁句(一) | 167 |
| 戦場の禁句(二) | 172 |
| 捕虜 | 176 |
| 遊兵をつくるな | 181 |
| 私設将校の差し出し | 184 |
| 戦場の酒と煙草と性 | 187 |

| | |
|-------------|-----|
| 奇々怪々の戦場 | 191 |
| 荒療治 | 198 |
| 戦場の恐怖 | 201 |
| 紫煙は東に流れた | 205 |
| 「人車一体」の姿を見た | 213 |
| 戦場の快感 | 216 |
| 補充兵 | 219 |
| 戦車と対戦車地雷 | 224 |
| M3戦車との対決(一) | 228 |
| M3戦車との対決(二) | 233 |
| M3戦車との対決(三) | 238 |
| 敵愾心 | 244 |
| 軍刀と拳銃の効果 | 248 |
| 機甲軍の創設 | 253 |

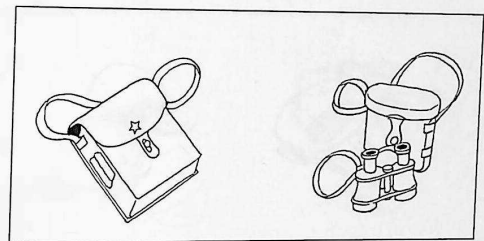


| | |
|------------|-----|
| 敵性語は使うべからず | 261 |
| 大陸に咲き鳥嶼に散る | 258 |
| 空から降る戦車 | 265 |
| イリサンの戦車特攻 | 270 |
| 本土決戦の戦車力 | 276 |
| 弱点射撃で勝てるか? | 270 |
| 戦場の創意 | 291 |
| おらが連隊長 | 297 |
| 型破り連隊長 | 309 |
| ある日の山下大将 | 324 |
| あどがき | 333 |

本文イラスト／山内一生

戦車隊よもやま物語

部隊創設から実戦まで



た。ふと振り返ってみると、五七歳の將軍は、まだ玄關先に立つたまま見送っていた。この日が、將軍に会った最初の日であり、また最後の日でもあった。いまでも私には、將軍は猛将というより、慈愛に満ちた勇将との強烈な印象が胸に刻み込まれている。

あとがき

本書の執筆にあたり私は、陸軍戦車の歴史を中心に、戦車部隊の編制と運用の変遷、戦車戦闘の実相、戦車将兵の戦場心理、人物史などを肩の凝らないエッセイ風に軽く描写しようという構想で筆を進めた。これは光人社のエッセイシリーズの路線に沿うためでもあった。だからといって、フィクションに走り、脚色に溺れることは戦車を冒瀆することになるという気持ちもあって、史実には忠実に、しかも正確を期した。

ところが稿を進めるほどに、戦車への愛着とともに、古稀を迎える老兵特有のさ_がともいえる「後につづく世代への申し送りとしたい」という意欲が頭を擡げ出した。こうした問題を寛大な気持ちと助言で取り成していただいたのが光人社の牛嶋義勝常務取締役だった。感謝のほかはない。

333 あとがき
さて、人物史としては紙数の制限もあって、私が戦場で仕えた二人の戦車連隊長とマレー作戦の山下奉文將軍を選んだ。この中で山下將軍と機甲（戦車）との関連について付言して

おこう。

ドイツの電撃作戦の成功に注目した陸軍では、昭和十六年のはじめ、山下將軍を團長とする視察団をドイツに派遣している。約六カ月の視察ののち、提出された報告は、

「軍備が充実するまでこれ以上の戦線の拡大は思いとどまり、航空と機甲（戦車）の飛躍的拡充を図る必要がある」といった意味深長な内容だったという。こうして戦車師団は創設された。だが、大東亜戦争への歯車はとまらなかつたのである。

最後になったが、本書の作成にあたり貴重な資料を提供していただいた大隈到氏、入江忠國氏、田中賢一氏、古井貞方氏、久保田徳夫氏、曾根正儀氏、市川雄一氏の先輩諸兄ならびに光人社の各位に深甚な謝意を表し、筆を擱く。

平成三年三月

寺本 弘

単行本 平成三年三月 光人社刊

戦車隊よもやま物語

二〇〇四年十二月七日 印刷
二〇〇四年十二月十二日 発行

著者 寺本 弘
発行者 高城直一

発行所 株式会社光人社

〒102-0073 東京都千代田区九段北一―九十一

振替／〇〇一七〇一七〇一六五五五五九三

電話／〇三三三二二五五―八六四(代)

印刷所 モリモト印刷株式会社

製本所 東京美術紙工

定価はカバーに表示してあります

乱丁・落丁のものはお取りかえ
致します。本文は中性紙を使用

光人社NF文庫

ISBN4-7698-2441-6 C0195

<http://www.kojinsha.co.jp>